

食物アレルギー検査について

- 1 今まで食べたことの無い食物に対してアレルギーが無いと判定されていても、食べ続けている間にアレルギー有りと変わることがあります。
- 2 犬猫等愛玩動物の餌には、食材の80%しか表示義務がありません。残り20%は、表示義務が無いので、何を使用しているかわかりません。表示されている原材料全てにアレルギー無しの判定の場合でも、添加されているビタミンやミネラル、或いは表示義務の無い20%の食材に対して、アレルギーを示すことがあります。
- 3 原材料の表示は量の多い順に書かれているので、後ろの方に書かれている材料のうち一つ、二つにアレルギーがあっても、含有量が微量なので食べても問題ない事があります。
- 4 新しいフードが合っている場合は、前のフードから一度に100%変えても、嫌がらずに食べる人が多いようです。
- 5 適切なフードに変更されると、半数位は、今まで悩んでいた嘔吐、下痢、便秘、皮膚の痒み等の症状が改善され、毛艶がよくなり、動作が活発になります。只これらの症状は、シャンプーやサプリメント、食品添加物や、花粉症、細菌、真菌、ウイルス感染でもおこります。原因を特定するには、詳しい検査が必要になる場合もあります。
- 6 口内炎、口臭は、歯周病やフードが原因のこともあります。口の中を清潔にしてあげてください。